



氏 倍因

心理新說

井上哲次郎抄譯
大槻文彦校訂

第四

口 7
3145
4止



倍因氏

心理新説目次

卷之四

意志論

第一 意志ノ原成分

(一) 自發性及ビ自護律ヲ原成分トス、

行動ノ自發、

(二) 自發、

(三) 執意力ヲ生ズルニハ、諸機關ノ獨立

シ得ルヲ要ス、

(四) 自發力ニ差等アルヲ察スベシ、

感應ト作用トノ結合



心理新説 卷之四 目次 一

明 口 7
號 3145
卷 4

心理新說 卷之四 目次 二 詞 類

- (五)作用ト感應トヲ結合スルノ媒介、
- (六)自護作用ハ、兩箇ノ支派ヲ生ズ、
- (七)第二ノ支派、

第二 執意力ノ發生、

- (一)原成分ヨリ意志ヲ發生ス、
- (二)意志ヲ習得スル順序、
- (三)意志發生ノ第二進歩、
- (四)新奇ノ聯合、
- (五)意志ノ一般ニ存スルハ種々ノ習得スルニ由ル、
- (六)模倣、

- (七)動カント欲スル思念ヲ爲シ遂ゲシ
- (八)動作ト成果ノ觀念トノ聯合、

第三 動機、

- (一)現在ノ快樂苦痛ヲ動機トス、
- (二)理想上ノ保持方、
- (三)快樂苦痛ノ津梁、

第四 思慮、決斷、及ビ努力、

- (一)思慮、
- (二)決斷、
- (三)努力、

心理新說 目次 二 詞 類

第五 願望

- (一) 願望ハ、發動セントスル動機ナリ、
- (二) 願望ハ、争賽ノ状態ヲ含有ス、
- (三) 願望ノ為メニ不休ノ状態ヲ来タスヲ免ル、ノ法、
- (四) 理想上ノ行為、
- (五) 願望ヲ誘起スル者、

第六 依信

- (一) 依信ハ、主トシテ意志ニ關ス、
- (二) 依信ト發動トノ關係、

倍因心理新說卷之四

井上哲次郎 抄譯

大槻 文彦 校訂

意志論

第一、意志ノ原成分、

- (一) 意志ノ原成分ハ、第一、行動ノ自發、第二、自護律
- ニ由リテ起ル作用ト感應トノ結合、是レナリ、既
- ニ意志ノ發達スルニ及ビテハ、把住若クハ接近
- ノ理法ニ由リテ習得スル所極メテ多シ、
- (二) 行動ノ自發

(二) 自發トハ、活動カヲ有スル諸機關ノ外ヨリ激
 因ヲ受クルヲナク、自ラ行動ヲ生ジ得ルヲ謂フ、
 一 自發ノ衝動ハ、外ヨリ之ヲ激動スル者アリテ
 起ルニアラスシテ、氣力、滋養、及ビ休息等ト相
 關スル諸神經、并ニ諸筋ノ作用ニ屬ス、彼ノ少
 壯ノ者、及ビ其他活動カ多キ動物類ノ餘分ノ
 行動ヲナスガ如キハ、激發スル者アルニ由リ
 テ然ルニアラスシテ、自然ノ發動性ニ出ツル
 ナリ、

(三) 始メテ執意カヲ生ズルニハ、別々ニ使令セラ

ルベキ諸機關ノ最初ヨリ獨立シ得ルヲ要ス、
 諸筋ノ叢合スルヲハ、若干ノ部分相伴ヒテ行
 動スルヲ見テ之ヲ知ルベシ、例ヘバ、諸指ノ同
 時ニ屈伸スルガ如キ、是レナリ、然レ氏各指ヲ
 離動スルヲ習得スル爲メニハ、其叢合ノ強
 緊ナラザルヲ要ス、蓋シ神經ハ各處ニ分布ス
 ルヲ以テ、各處ノ衝動ハ、單行スルヲ得、其最モ
 著キ的例ハ食指、是レナリ、兒童ハ最初ニ食指
 ヲ離動シ、其他ノ三指ヲ離動スルヲ能ハズ、母
 指ハ食指ヨリ離動シ難ク、他ノ三指ヨリ離動

シ易シ、更ニ足趾ニ至リテハ、最モ離動シ難シ、然レモ此叢合ト雖モ、全ク離動スベカラザルニアラス、故ニ足趾ヲ以テ文字ヲ寫シ、或ハ其他ノ技術ヲ爲スノ能力ヲ得ル者アリ、支體ノ如キハ、協合動作ノ爲メニ叢合スト雖モ、亦能ク分離スベシ、又顔面ノ兩側ノ如キハ、常ニ伴動スル者ナレモ、亦間之ヲ離動スルコトアリ、總ベテ此ノ如ク局部ヲ離動シ得ルハ、抑意志ヲ生ズルノ始メナリ、是ヲ以テ始メヨリ毫モ離動スベカラザル局

部ニ於テハ、決シテ有意作用ヲ生ズルコト能ハズ、例ヘバ、兩耳ノ如キハ、人類ノ容易ニ使令シ能ハザル所ナリ、而シテ又人類ノ此局部ニ有意作用ヲ得ザル者ハ、其離動スベカラザルニ由ル、啻ニ其自發力ヲ缺クガ爲メニアラザルナリ、
 (四) 自發力ノ度ニ甚シキ差等アルコトハ、執意力ニ差等アルコト相照シテ之ヲ察スルヲ要ス、
 執意的ノ機關ヲ使令スルニハ、許多ノ差等アリテ、其甚シキ者ハ、倏忽發動シテ、極メテ急劇

ナリ、今意志ハ原ト自發性ニ出ツト云フ説ニ據リテ之ヲ辨明センニハ、自發性ニモ此ノ如キ急劇ノ發動アルヲ示スヲ要ス、

(イ) 滋養ノ十分セル體軀ノ自然ノ氣カハ、其勢必ズ暴發セントス、是レ吾人ガ日ニ強健ナル兒童、及ビ少壯者ニ於テ察スル所ナリ、彼ノ童男童女ノ檢束ヲ脱シテ奔逸シ、或ハ溝渠ヲ越エ、或ハ牆壁ヲ破リ、或ハ重量ノ物ヲ運ブガ如キハ、皆其自發性ニ出ツル者ニテ、亦體軀ノ必須スル所ナリ、

(ロ) 氣カハ、亦激動ニ由リテ大ニ亢進セシムルヲ得、若シ激動ニ由リテ血液ヲシテ一時盛ニ機關ノ發動スル所ニ流注セシムル片ハ、全軀ノ行動之ニ伴ヒテ其勢ヲ增加ス、

(ハ) 又心意上ノ原因ナル快樂苦痛等ノ爲メニ激動ヲ生ズルヲアリ、蓋シ快樂ヲ得ル片ハ、自護律ニ從ヒテ活動カヲ増進スルヲ以テ、若シ對敵ニ勝チ、困難ニ勝ツ片ハ、暴力ニ銳利ナル快情ヲ生ズ、而シテ身體モ亦之ニ伴ヒテ發揚ス、殊ニ壯強ナル人ノ如キハ、喜悅ノ爲メニ抃

舞雀躍スルヲアリ、

(三)苦痛ハ、自護律ニ從ヒテ氣カヲ減損スル者ナレ氏、時アリテハ又甚シカラザル刺戟ノ爲メニ氣カヲ増進スルヲアリ、若シ鞭ヲ以テ撃タレタル片、疼痛ヲ覺ユルヲアレバ、神經之レガ爲メニ流動シテ、發表スル所ナク、諸筋ノ活動カヲシテ亢進セシムルヲアリ、

右ノ數條ハ、皆自發カノ多少ヲ制スル者ニテ、種々ノ激因中、何レニテモ發生スル片ハ、活潑ナル氣カノ暴發ヲ來タスナリ、然ルニ意志ハ

氣カノ暴發ト其時機トヲ聯合スル所ヨリ生ズ、今一例ヲ舉ゲテ之ヲ證センニ、稚馬ヲシテ溝渠ヲ越エシムルニハ、之ヲ鞭ツヲ要ス、然レ氏若シ此人如クスルヲ數回ニ及ブ片ハ、稚馬ハ唯、溝渠ヲ見ルノミニテ之ヲ越エントスルナリ、

感應ト作用トノ結合

(五)自發作用ハ、必ズシモ感應ニ從ヒテ發生スル者ニアラザレバ、ソレト感應トヲ結合スルノ媒介無カルベカラズ、蓋シ此結合ハ自護律ノ爲ス

所ナラント云フ、蓋シ此論合ハ自發作用、高ハ快樂ハ活動カヲ増加シ、苦痛ハ活動カヲ減損スル所以ヲ説明スルヲ得ベシ、夫レ快樂ノ状態アル片ハ、全身ノ活動カヲ增益シ、隨ヒテ又諸筋ヲシテ其發動ヲ亢進セシメ、苦痛ノ状態アル片ハ、之ト反對ノ結果ヲ生ゼシムル者ナリ、

(六) 自護作用ハ、心意上ニ於テ、一箇ノ根源タル者ニテ、此ヨリ兩箇ノ支派ヲ生ス、此兩箇ノ支派ハ、

大ニ相異ナリト雖モ、亦間、親近ナルコトアリ、第一ノ支派ハ、情緒ノ表現ヲ謂フ、情緒ノ表現ハ、各種ノ動作ヲナシテ、感應ト作用トヲ結合スルヨリ生ズ、即チ快樂アル片ハ、種々ノ容姿ヲ表ハシ、苦痛アル片ハ、多少委頓ノ狀ヲ來タス、蓋シ此等ノ動作ハ自發作用ト異ナリト雖モ、亦執意ト同シキ者ニモアラズ、

(七) 自護作用ノ第二派ハ、最モ意志發生上ニ關係アル者ナリ、即チ自發力ニヨリテ動作ヲ生ゼンニ、若シ快樂ト偶合スルコトアル片ハ、全軀ノ活動

カ、其ニ其動作ヲモ増加スル者ナリ、
是レ蓋シ体格ニ屬スル規律ニシテ、意志發生
ノ初メヨリ身ヲ終ルマデ之ニ從ハザルヲ得
ザルナリ、
若シ喜悅ヲ生ズルコトアレバ、忽チ之レガ爲メ
ニ感動シ、益之ヲ得ント欲シテ、其動作ヲ保續
セシトスルコトハ、衆人ノ知ル所ナリ、例ヘバ、冷
寒ヲ避ケ温暖ニ近ツクキノ如キハ、其行爲才
ノツカラ加速シテ、思慮スルニ暇アラズ、又食
大物ヲ喰フキハ、其風味益咀嚼ヲシテ速ナラシ

ム、此ニ由リテ意志ノ發生スル所以ヲ知ルベ
ク、
第二、執意力ノ發生、
一、執意力ノ原成分ハ、自發性ト自護律トナルコ
トヲ説キシガ、今又此原成分ヨリ意志ヲ發生スル
所以ヲ説明セントス、
二、十分發達シタル意志ノ傾向ハ、快樂ヲ得ルガ
爲メカ、又ハ苦痛ヲ避クルガ爲メニ、忽チ動作
ヲ生ズル者ナリ、例ヘバ、香バシキ桔梗ニ遇ヘ
バコレヲ鼻端ニ附ケントシ、臭氣ヲ發スルモ

心理新説 卷之四 七 桐 盟 稿

ノニ遇ヘバ、コレヲ避ケントスルガ如キ、是レ
ナリ、此ノ如キ能力ハ、生レタル時ニハ有セザ
ル所ナリ、苦痛ヲ避ケン

(二)意志ヲ習得スル順序ハ、左ノ如シ、樂ヲ得ルハ
初メ偶然ニ快樂ト快樂ヲ保持且ツ増益スル自
發動作ト相合スルコトアリ、或ハ又苦痛ト苦痛ヲ
減損若クハ除去スル動作ト相合スルコトアリ、然
ル片ハ、快樂ヲ生ズル動作、并ニ苦痛ヲ除去スル
動作ハ、自護作用ニヨリテ之ヲ保持且ツ増益ス
ルヲ得、若シ屢此ノ如クスル片ハ、之レガ爲メニ

結合ヲ生ジ、遂ニ感應能ク動作ヲ使令スルニ至
ルナリ、此ノ如ク

左ニ順序ヲ逐ヒテ、此事ヲ説明セントス、百
先ニ筋覺ヨリ之ヲ始メ、運動ノ快樂ヲ論ゼン
ニ、爽快強健ナル体格ハ、自發動作ノ爲メニ快
樂ヲ生シ、此快樂ノ爲メニ活動力ヲ増益シ、隨
ヒテ又其動作ヲ保持且ツ増益ス、疲羸ノ苦痛
ハ、全ク之ト相反ス、蓋シ苦痛ノ爲メニ生ズル
直接ノ結果ハ、氣力ノ減損ニ外ナラス、而シテ
動作モ亦之ト共ニ減損シ、全ク停止スルに至

ル、是レオノツカラ苦痛ヲ治スルノ法ニ合シ、十分發達シタル意志ノ爲ス所ト均シク効アル者ナリ、

此等ノ例ハ、未ダ以テ意志ノ進歩ヲ説明スルニ足ラズ、次ニ筋力ヲ檢束シタル片ノ苦痛、即チ自發性ヲ妨碍スル片ノ苦痛ヲ舉ゲテ之ヲ論ゼン、若シ動物ヲ捕ヘテ之ヲ狹隘ナル一室ニ容ル、片ハ、其氣力ノ振暢シ難キヲ以テ、百度騷擾シ、竇口アル所ニ近ツケバ、暴ニ奔脱セシントス、若シ屢此經驗ヲ反覆スル片ハ、檢束ス

状態ト之ヲ救フベキ動作トヲ聯合シ、脱途ヲ得ルガ爲メニ復タ騷擾スルコトナキニ至ル、是レ執意ヲ習得スルノ一步ナリ、
次ニ有機感覺ニ就キテ之ヲ説明セシ、鋭敏ナル有機的ノ苦痛ノ中ニテ、最モ發悟シ易キ一例ハ、熱機若クハ利機ノ觸ル、ヨリ生ズル苦痛ノ類ナリ、此等ノ苦痛ヲ鑿スルノ法ハ、支體ヲ縮退スルニアリ、然ルニ世人或ハ誤リテ之ヲ天性ニ出ツル者トスレ氏、是レ決シテ然ラザルナリ、但痛ク壓搾スル片ハ、其壓搾セラレ

タル局部、反動作用ヲ生ズ、然レ氏反動作用ハ
 必ズシモ苦痛ヲ治セズ、或ハ却リテ苦痛ヲ増
 スコアリ、若シ縮退シタル支體ノ反動作用ヲ
 生ズル片ハ、或ハ突出スルコアリ、然ル片若シ
 鋭鋒、其路ニアラバ、益、損害ヲ來タサズルヲ得
 ザルナリ、今爰ニ眞ニ意志ヲ習得スルノ法ヲ
 述メン、若シ行動ノ中ニ苦痛ヲ減ズル者アラ
 バ、苦痛ヲ避ケンガ爲メ、益、其行動ヲ保持セン
 トシ、其他苦痛ヲ増加スル行動ハ、之ヲ休止セ
 ントス、然レ氏此經驗ヲ爲スコ唯、一回ニ過ギ

ザル片ハ、習得スル所甚タ少キナリ、若シ之ヲ
 反覆スルコ數回ニ及ブ片ハ、接近聯合始メテ
 胚胎シテ、漸次ニ固着シ、遂ニ十分ノ發生ヲ成
 スコ得、既ニ此ニ至ル片ハ、苦痛ヲ感スレバ忽
 チ退縮スルコヲ知ルナリ、此ノ如クニシテ、意
 志ヲ習得スルハ、如何ニヤト思フ人アラシ歟、
 然レ氏之ヲ證スルニ一例アリ、腓腸ノ攣急ス
 ル痛ミハ、始メハ之ヲ治スルノ法ヲ知ラザル
 モ、幾度トナク之ヲ經驗スル片ハ、遂ニハ之ヲ
 治スルノ法ヲ知ルニ至ル、此ノ理由ハ明白ナ

ルコナリ夫レ腓腸ノ攣急ハ常ニ起ル者ニア
ラズ是ヲ以テ之ヲ治スルノ法ヲ習得スルコ
甚カ難シ之ニ反シテ皮膚ノ苦痛ヲ感ズルコ
ハ生來最モ多ク經驗スル所ナルヲ以テ之ヲ
避クルコトヲ識得スルヤ最モ早ク且ツ完全ナ
リ
肺ノ感覺ニ就キテ之ヲ論ゼンニ呼吸ハ意志
ノ使役ニ從フ反動作用ニシテ其苦痛ヲ感ズ
ルハ多クハ空氣ノ不足スルカ或ハ不潔ナル
ニ由ル然ルニ之ヲ治スルノ法ハ全ク他ノ苦

痛ヲ治スルノ法ト相反セザルヲ得ズ即チ肺
ハ其作用ヲ休止セズシテ益其活動力ヲ增加
セシコトヲ要スルナリ如何ニシテ初メ此肯綮
ヲ習得スルカヲ察スルニ蓋シ呼吸筋ノ發動
スル片偶然苦痛ヲ絶止シ全軀ニ勢力ヲ回復
スルコトアルヲ覺知スルニ始マルナリ小兒ノ
如キハ意志ノ未ダ十分ニ發達セザルヲ以テ
呼吸ヲシテ亢進セシムルコト能ハズ是ヲ以テ
長大ナルモノヨリ生命ヲ失ヒ易シ
總ベテ感覺ヲ有スル動物ハ皆温煖ト冷寒ト

ノ爲メニ執意的ノ習慣ヲ生ジ、躊躇シテ温暖
 ヲ増加スルヲ知り、又互ニ相依リ、或ハ穴中ニ
 伏竄スルヲ知ル、
 此外吸乳作用、及ビ咀嚼、并ニ五官等ノ執意力
 ヲ得ルハ、皆漸次ニ之ヲ習成スルニ由ル、一
 ヲ之ヲ證明スベシト雖モ、其事ノ或ハ煩瑣ニ
 涉ランコトヲ恐レテ、此篇ニハ之ヲ畧ス、
 (三)動作ト中間ノ目途トヲ聯結スルヲ意志發生
 ノ第二進歩トス、
 此ニ一ノ感覺ヲ生ズルコトアラシニ、其感覺ハ

中性ノ者ナレド、此ニ由リテ常ニ快樂ヲ得ル
 片ハ、之レガ爲メニ興味ヲ誘起ス、例ヘバ、阿母
 ノ胸ヲ見ル片ハ、單ニ視覺ヲ生ズルノミニテ、
 其感覺ハ中性ニ屬ス、然レド小兒ノ心ニアリ
 テハ、忽チコレト滋養ヲ満足スルコトヲ結合
 ス、是レ即チ感覺ヲ接近セルモノニ移ス、一
 例ニシテ、総ベテ甚シキ感覺及ビ感應ノ類ハ、
 此ノ如クニシテ成ル者ナリ、此事ハ人類ノミ
 ニ限ルニアラズ、劣等動物ノ如キモ食物ヲ見
 テ其活動力ヲ激發ス、是レ往日ノ感應ヲ追想

シ、其感應ト聯合シタル物ノ爲メニ感起スベ
 キ十分ノ知カヲ有スルニ由ル、而シテ感覺ト
 感覺ヲ得ル爲メノ動作トヲ結合スルノ順序
 ハ、前條ト毫モ差違アルコトナシ、即チ食物ヲ口
 邊ニ舉クルハ、中間ノ目途ニ達セントスルヨ
 リ起ルコトニテ、其勢力ノ度ハ、其目途ニ就キテ
 習得シタル勢力ト比例ヲ爲ス、兒童モ數回經
 驗スル片ハ、唯、食匙ノ口邊ニ近ツクヲ見ルノ
 コニテ感動ヲ起ス、蓋シ食匙ノ漸ク近ツクヲ
 見ル片ハ、既ニ快樂ヲ得タル想ヲ生スレバナ

リ、
 (四)一タビ感覺ト感覺ヲ得ル爲メノ動作トヲ聯
 結スル片ハ、此ヨリ又新奇ノ聯結ヲ生ズ、
 動作ト感覺トハ、自發性ニヨリテ始メテ結合
 ス、然ルニ結合スルコト數多ナル片ハ、其結合セ
 ラレタル動作モ、又隨ヒテ益、發生シ、感應上ニ
 新奇ノ影響ヲ及ボスニ至ルト云フ、又自動力
 ノ如キハ、始メハ自發ノモノナレド、忽チ動物
 ノ要求スル所ト聯結シ、ソレヲシテ新奇ノ快
 樂ヲ得セシム、例ヘバ、幼稚ノ時ニ自動ト食物

ヲ要求スルコトヲ聯結シ得ル片ハ、其聯結ハ忽チ又居所、伴侶、安全、及ビ其他ノ喜樂ヲ生ズル者ニ延及スルナリ、

(五)意志ノ増進シテ一般ニ存スルニ至ルハ、種々ノ習得ニ由ルコトナリ、
第一ヲ命令ノ語トス、

動物并ニ人類ヲ教練スルニ許多ノ語ヲ用フル片ハ、其語ハ遂ニ使役ノ具トナルナリ、今馬ヲ駐ムルニハ、語ヲ用ヒテ之ヲ呼ビ、且ツ手繩ヲ拖クヲ要ス、然レモ此ノ如クスルコト數回ニ

及ブ片ハ、唯、語ヲ發スルノミニテ馬ヲ駐ムルニ足ルナリ、稚兒モ亦馬ト同ジク命令ノ語ニ從ヒ、動止ヲ爲ス、今之ニ口ヲ開ケヨト告ゲンニ、始メハ其意ヲ知ラズ、然レモ他ノ方法ニヨリテ口ヲ開カシメラル、片ハ、其動作ト其語トヲ結合スルヲ得、抑、快樂ヲ増加シ、苦痛ヲ除去スルハ、意志ノ始メナリト雖モ、命令ノ語ハ、此事ヲ回想セシムルノ効アリ、今獵犬ヲ停ムルニ語ヲ以テスル片ハ、其語ハ獵犬ヲシテ鞭策ノ痛ミヲ憶ハシム、小兒モ亦命令ノ語ニヨ

リテ快樂ヲ増加シ、苦痛ヲ除去スベキ動作ヲ
 選ブコトヲ得ルナリ、
 (六)其他意志ノ發達ヲ助クル者ハ、模倣ナリ、
 世人往々模倣ヲ以テ天性ニ出ツル者トスレ
 氏、其實ハ決シテ然ラズ、稚兒ノ始メテ生レタ
 ル時ニ當リテ、毫モ模倣スルコト能ハズ、但、其生
 長スルニ隨ヒテ、漸次ニ模倣カヲ習得スル者
 ナリ、
 模倣ハ、他人ノ動作ヲ爲ス容止ト我ニアル同
 一ノ機關ヲ動カストトヲ結合スルコトナリ、例

ヘバ、蹈舞ヲ學ブ時ノ如ク、他人ノ音聲ヲ模倣
 スルニハ、耳ノ感覺ト、口、喉頭、及ビ胸膈ノ動作
 トヲ結合シ、屢之ヲ反覆シテ後チ始メテ固定
 スルニ至ル、此外他人ノ動作ヲ模倣スルヨリ
 シテ、意志ヲ發達スルコト甚カ多シトス、
 (七)次ニ意志ノ發達ヲ助成スル者ハ、動カント欲
 スル思念ヲシテ爲シ遂ゲシムルノ發動力、是レ
 ナリ、
 今夫レ人ハ快樂ヲ求メ苦痛ヲ避クルノ目途
 無ク、唯、發動ヲ爲サント欲スル思念ヲ生ジ、之

レガ爲メニ或ハ起立シ、或ハ手ヲ伸バシ、或ハ
 音樂ヲ奏スルヲ得ベシ、然レ氏此等ノ動作ハ、
 全ク究竟ノ目途ニ關係ナキ者ニアラズ、實ニ
 思念ハ幾分カ快樂ト苦痛トニ關係アル者ナ
 リ、且ツ夫レ動作ヲ爲スハ、單ニ動作ヲ爲サン
 ト欲スル意ニ出ツルニアラズ、若シ他人ノ我
 ガ力量ヲ信ゼザルニアラバ、我レ動作ヲ爲シ
 テ之ヲ示スニアラズ、雖モ、然レ氏是レ亦
 權勢ノ快樂ヲ求ムルカ、或ハ降辱ノ苦痛ヲ避
 ケント欲スルノ思念アリテ爲ス所ナリ、大抵

通常思念ノ爲メニ動作スルハ、目途ニ達セン
 ト欲スル思念アルニ由ル、而シテ其作用ハ唯
 之レガ津梁タルノミ、例ヘバ、煩渴シタル片湯
 泉ノ傍ヲ過ケレバ、之ヲ飲ム爲メニ動作セン
 ト欲スル思念ヲ生ズルガ如キ、是レナリ、
 (八) 執意カハ、動作ト成果ノ觀念トヲ聯合スルニ
 至リテ、十分ノ發達ヲ爲スナリ、
 街道ヲ經過シテ人家ニ向フハ、其家ニ入ルノ
 觀念ヲ前ヨリ有スルニ由リ、火ヲ起スモ、焰光
 ヲ生ジ火氣ヲ増スノ觀念ヲ前ヨリ有スルニ

由ルナリ、又手ヲ口邊ニ舉クルハ、動作ト飢渴
 ヲ治スルノ觀念トヲ結合スルニ由リ、物ヲ書
 クハ述ベント欲スル所ノ觀念ト手ノ動作ト
 至ヲ結合スルニ由ル、既ニ此ノ如クナル片ハ、意
 志始メテ十分ノ發達ヲ爲スナリ、

第三、動機、即チ目途、

(二) 動機、即チ行爲ノ目途ハ、快樂ト苦痛トニ外ナ
 ラズ、

快樂ト苦痛トハ、共ニ我が活動力ヲ激發スル
 者ニシテ、一ハ我が要求スル所ニシテ、一ハ我

ガ排除スル所ナリ、畢竟動機ヲ類別スルハ、快
 樂ト苦痛トヲ類別スルニ異ナラズ、

(三) 快樂ト苦痛トハ、唯之ヲ先見スル片ニ、我が行
 爲ヲ誘起ス、是レ理想上ノ保持力、殆ント實際ノ
 勢カト侔シキニ由ル、

總ベテ心意上ノ感應ハ、多少之ヲ知カ上、即チ
 理想上ニ保持スルヲ得、若シ甚シキ疲羸ノ爲
 メニ苦痛ヲ生ズル片ハ、其事既ニ過ギタリト
 雖モ、猶ホ忘レ難ク、且ツ再ビ其状態ヲ來タサ
 バラシクヲ務ムルノ嚮向アリ、

快樂ト苦痛トヲ理想上ニ保持スル片、之ヲ左
右スル狀勢、數條アリ、
快樂ト苦痛トノ強弱、即チ度位ヲ第一トス、蓋
シ現在ノ意識愈、明瞭ナル片ハ、之ヲ保持スル
一愈、永久ナル一ハ、知力ニ屬スル自然ノ理法
ニシテ、快樂苦痛及ビ中性ノ感動ハ皆之ニ從
フ者ナリ、故ニ快樂ノ強キ者ハ、其弱キ者ヨリ
能ク記憶スベシ、又刑罰ヲ行フニ劇痛ヲ生ゼ
シムルハ、微痛ニテハ罪過ヲ止ムルニ足ラザ
ルヲ以テノミ、現ニ吾人ノ勞動ハ、一トシテ快

樂苦痛ノ二者ニ起因セザルハナシ、榮譽權勢
等ノ如キ快樂ヲ渴望スルハ、之レガ爲メニ感
ズル一深ク、之ヲ記憶スル一強キニ由ルナリ、
又疾病、耻辱等ノ苦痛ヲ記憶スルノ強キモ、亦
之ヲ感ズル一深キニ由ルナリ、
繼續ト反覆トヲ第二トス、凡ソ快樂ハ長ク繼
續シ、且ツ屢、反覆スル片ハ、能ク之ヲ保持スル
ヲ得、苦痛モ亦然リ、遊獵ヲ爲シテ屢、失望スル
片ハ之ヲ休止ス、是レ啻ニ希望ノ弱クナルニ
由ルノミナラズ、亦反覆ニ由リテ追想力ヲ強

心理新說 卷之四 十八 詞 盟

クスルニ由ル、但快樂及ビ苦痛ノ記憶ハ、時ヲ
經ルニ從ヒテ微弱トナラザルヲ得ズ、是ヲ以
テ久シキヲ經タル快樂ハ、理想上ノ希望ヲ起
スニ足ラズ、昔日ノ苦痛ハ、意志ヲ激發スルノ
カラ有セズ、
第三ハ、知カ上ノ等級是レナリ、知カ上ニ於テ
感應ヲ保持スルニオノツカラ其等級アリ、聽
官及ビ視官ノ感應ト、柔和、自推、知カ、美術ノ情
ノ快樂ト、心痛及ビ悔恨ノ苦痛トハ、筋ノ動作ヨ
リモ偶有ノ不消化ヨリモ動機トナリテ遺存

シ易キ者ナリ、
第四、快樂苦痛ヲ記憶スルニ、特異ノ資性アリ
テ、此人ノ彼人ヨリモ能ク快樂苦痛ヲ記憶ス
ルヲ、猶ホ言語及ビ其他ノモノヲ記憶スルニ
差違アルカゴトシ、固ヨリ現在ノ喜樂若クハ
現在ノ苦痛ニ對シテハ、衆人皆均シク感動ス
ベシト雖モ、實事ノ過ギ去リタル後ニ及ビテ
ハ、此人ノ回想カハ彼人ヨリモ強キヲアリ、即
チ不謹慎ヨリ生ズル苦痛ノ如キハ、其絶止ス
ルニ從ヒ、忽チ之ヲ忘却スル人アレハ、亦久シ

ク之ヲ記憶シテ忘ルルヲ能ハザル人モ之アリ、實ニ節制ト同情トハ、快樂苦痛ヲ記憶スルニ及ラザレバ、發生シ難キ者ナリ、第五感應ヲ回想スルニハ、旁在ノ事物之レガ補助トナルナリ、蓋シ甚シキ快樂ヲ得ル片ハ、之ト共ニ發生シタル發動及ビ感覺ヲモ記憶ス、此等ハ皆其快樂ヲ回想セントスル片ニ助成スル者ナリ、故ニ喜悅スベキ報道ヲ得ル片ハ、何人ニ限ラズ、皆其處ト其時トヲ記憶ス、又外科施術ヲ受ケタル患者ハ、其時ノ室内ト其

暨ノ所爲トヲ忘ル、一能ハザルナリ、
(三)吾人ノ勞動スル中ニハ、原ト津梁タルニ過ギザル者モ、聯合ニヨリテ要求ノ究竟目途トナルヲ多シトス、即チ金錢体力、智識、法儀等ヲ誤リテ究竟目途トスルガ如キ、是レナリ、
何物ニ拘ハラズ、總ベテ生業ノ目途ト常ニ相關スルモノハ、我が心意中ニ於テ目途ト同一ノ價直ヲ生ズ、蓋シ田圃、湧泉等ヲ生業ニ欽クベカラザル者トシテ貴重スルハ亦之レガ爲メナリ、金錢ノ如キモ、原ト快樂ヲ得ルノ津梁

ハ 理新言 卷之四 同 盟 録
タルニ過ギザレ氏、此ニ由リテ快樂ヲ得ル
多キヲ以テ遂ニ之ヲ目途ト同一視シテ要求
スルニ至ル、蓋シ田園農桑ノ生業ニ於テ
凡ソ我ニ感動スル所アリテ物ヲ要求スル片、
其物ヲ得ルノ快樂ハ、其感動ノ度ト對合スル
者ナリ、故ニ金錢ヲ得ル片ハ、此ニ由リテ得ベ
キ快樂ヲ想フニ暇ナク、唯之ヲ得ルノミニテ
喜悦ノ情ヲ生ズ、殊ニ欽乏、劬勞、賤弱、耻辱並ニ
三 恐怖等ヲ感じタル人ニアリテハ、此情更ニ甚
シトス、總ベテ此等ノ憂苦ヲ免ル、片ハ、忽チ

早稲田圖書

之レガ爲メニ反動ノ情ヲ起シ、未タ得ル所ノ
津梁ニ由リテ目途ニ達セザレ氏、數多ノ苦痛
ヲ免ルベキヲ覺知シ、之レガ爲メニ喜悦ノ
情ヲ生ズ、然ルニ恐怖ヲ過想スル人ハ、此感覺
ヲ起ス、最モ甚シキヲ以テ、唯、金錢ヲ貯蓄シ
テ之ヲ費ヤサハランヲ務ムルナリ、況ヤ又
優等ノ情モ金錢ニ由リテ生ズベク、又金錢ヲ
得ル片喜悦ノ情ニ耐ヘザルベク、且ツ金錢ハ
勞カシテ得ル所ナルヲ以テ之ヲ愛スルノ情
モ發生スベキ理由アレバ、津梁ヲ誤リテ目途

心理新説 卷之四 二十一 同 盟 録

トスルモ亦宜ナラズヤ、
其他同一ノ觀察ヲ下ダスベキ者アリ、健康ノ
如キハ原ト無用ノモノナレバ、唯、幸福ヲ得ル
ノ津梁タルヲ以テ肝要ナルモノトス、故ニ智
識アル人ハ之ヲ要求シテ其適度ヲ失ハズ、若
シ徒ニ健康ヲ求メ、總ベテ快樂ヲ生ズベキ者
ヲ放棄スルハ、是レ豈ニ損失ナラズヤ、然レバ
世人ハ不健康ヨリ苦痛ヲ生ズレバ之レガ爲
メニ損失ヲ來タスコトヲ記憶スレバ、其記憶ノ
微弱ナルモノナレバ、思慮ニ由リテ之ガ援勢

ヲナカシムルコトヲ要ス、
智識モ亦金錢ト同ジク、目途トナラントスル
ノ嚮向アリ、抑、智識ハ人世萬事ノ導キトナリ、
阻礙ヲ除キ蒙昧ヲ開クヲ以テ、或ハ之ニ就キ
テ種々ノ聯合ヲ生ジ、要求ノ目途トナス者ア
リ、就中多クノ言語ヲ知ルハ、甚タシキ勞力ヲ
要スル者ナレバ、唯、之ヲ目途ト思ヒ、之ニ價直
ヲ附シ、或ハ適ニ其適度ニ過タルコトアリ、
律法、職務、及ビ學藝上ノ法儀ハ、津梁トシテハ
肝要ナル者ナレバ、目途トシテハ價直ナキ者

ナリ、然レ氏或ハ之ヲ好ムノ甚シキヨリ、目途
非見徹ス者、往々コレアリ、是レ金錢ヲ目途ト
シテ要求スルト、毫毛異ナル所ナシ、
第四、思慮、決斷、及ビ知力、
第二、思慮ハ、商量スル所アリテ、動機ハ、長ク決セザ
ルモノナリ、即チ輕卒ニ事ヲ爲セバ、苦痛ヲ生ズ
ルヲ記憶スルヨリ起ル執意的ノ發動ナリ、
動機ノ始メテ起ル片、之ニ從ヒテ粹ニ發動ス
レバ、之ガ爲メニ惡シキ結果ヲ生ズルコトハ、經
験ニ由リテ苦痛ヲ知ルノ一例ナリ、幼少ノ時

ハ食物ニ類スルモノヲ見レバ、其何物タルヲ
問ハズ、之ヲ以テ飢餓ヲ發セントス、若シ他人
之ヲ乞フ者アル片ハ、直ニ之ヲ與ヘ、且ツ何
人ニ拘ハラズ、之ニ告タル者アレバ、其言ヲ信
ジテ疑ハズ、然レ氏漸、歳ヲ經レバ、此人如キ衝
動ノ惡シキ結果ヲ生ズルコトヲ發明シ、隨ヒテ
又發動セントスル片ハ、多少猶豫スベキコトヲ
覺知シ、始メテ思慮ヲ爲スニ至ル、
思慮ヲ生ズル片ニハ、現在ノ衝動ト過去ノ記
憶ト相抗スル者ナリ、畢竟思慮ヲ爲スハ屢失

誤ノ爲メニ禍患ヲ招キタルヲ以テ、之ヲ免レ
 ンガ爲メニ輕率ノ舉動ヲ爲サントスル
 ヲリ起ルヲナリ、
 總ベテ動機ノ生ズル片、之ヲ決スルニ多少猶
 豫ヲ要スルコトハ、經驗ニヨリテ知ルベシト雖
 モ、亦之ト同一ノ經驗ニ由リテ猶豫スルコト餘
 リ長カルベカラザルコトヲモ知ル、即チ思慮ノ
 度ハ、大抵何如ナルベキ者ナリヤヲ思ヒ、其過
 ギタルト及バザルトハ、共ニ禍害ヲ來タスコ
 トヲ覺リ、其中庸ヲ執ラントスルナリ、大抵世人

ノ肝要ナル書柬ニ答フルニハ、少ナクモ一日
 間ハ猶豫ス、或ハ又其事ノ錯雜セルガ爲メニ、
 一日以上猶豫シテ後始メテ決スルコトアリ、
 又新ニ生ジタル動機ノ心意ニ感ズルコト太
 甚シキ片ハ、禍害ヲ來タスノ恐アリ、何ントナ
 レバ、總ベテ心意ノ感ズルハ、其初メニ於テ最
 モ甚シトス、然ルニ此機ニ乘ジテ發動スル片
 ハ、現在ヲ重ジテ過去ヲ輕ズルノ危難ナキニ
 アラス、是ヲ以テ各動機ノ漸、休止スルヲ待テ
 發動スルヲ要ス、

思慮ヲ爲スニ就キテ猶ホ又別ニ困難ナルコトアリ、即チ未ダ曾テ試檢セザル位置ノ如何ヲ判斷スルコト、是レナリ、若シ一度經過シタル所ナレバ、唯往日ノ記憶ヲ要スルノミナレバ、全く新奇ノ位置ニ至ラントスルニハ、先必善ク勘考セザルベカラズ、且ツ我が經過セントスル所ヲ經過シタル人ニ就キテ質サミルヲ得ズ、例ヘバ、會社ニ入ラントスル片、或ハ他國ニ移任セントスル片、或ハ婚姻ヲ結バントスル片ノ如キハ、皆容易ニ其結果ノ如何ヲ預知ス

ベカラザルヲ以テ倉卒ニ事ヲ爲セバ失誤ヲ來タスノ恐アリ、
三 動機ノ爲メニ行爲ヲ始メントスレバ、直ニ之ヲ始ムルコト能ハザルコトアリ、其間ノ状態ヲ決斷トス、
遠ニ動機ニ從ヘバ禍害ヲ來タスノ恐レアルヲ以テ、之ヲ避クル爲メニハ、思慮ヲ要スルコト既ニ前條ニ於テ之ヲ述べタルガ、猶ホ又思慮ノ外ニモ要スル所アリ、大抵事ヲ決定スルハ、行爲ヲ始ムル前ニ於テ之ヲ爲スモノナリ、即

八五新言 卷之四
チ明日、或ハ來週、或ハ來年ノ事ニ就キテ今日
之ガ工夫ヲ下ダスナリ、此ノ如ク未ダ行為ヲ
始メザル前ニ思慮ヲ爲シテ其思慮ノ既ニ休
止シタル所ヲ決斷ト名ク、若シ動機ノ我ニ感
ズル片、直ニ之ニ從ヒテ行為ヲ始ムレバ、思慮
モ決斷モ共ニ無シ又粗忽ナラザルガ爲メニ
若干ノ動機ヲ比較料度スレバ之ニ續キテ直
ニ行為ヲ始ムル片ハ決斷アラザルベシ、
決斷スル片ノ状態ハ、全ク靜謐ナル状態ニア
ラズシテ、實際ノ行為ヲ始ムル前ニ發生スル

活動ナリ、即チ將ニ經過セントスル時機ト境
遇トヲ竝チテ、此ニ注目スル状態ナリ、例ヘバ、
健康ト快樂トノ爲メニ安息日ヲ得ント欲ス
ルトアラニ、此ノ如キ動機ハ、直ニ之ニ從ヘ
バ、不幸ヲ來タスノ恐アルヲ以テ、姑ク之ヲ止
メテ思慮ヲ爲シ、總ベテ動機ヲ料度シテ始メ
テ安息日ヲ得ルトナル、然ルニ此ヨリ實際
ノ行為ヲ始ムルニ至ルマデ、猶ホ多少ノ間隙
アリ、蓋シ決斷ハ此間隙ニ於テ成就スルヲ得、
決斷スル片ニ當リテ、動機俄ニ變ジ、爲メニ既

ニ決斷シタルヲ放棄スルヲアリ、是レ蓋シ
 思慮ノ未ダ十分ナラザルニ休止シ、其後チ新
 奇ノ動機ヲ生ジ、之レガ爲メニ變動スルハ思
 慮ノ倉卒ナルニ本クフニテ、總ベテ不決斷ハ
 思慮ノ不足ナルカ、又ハ現在ノ動機ニ感ズル
 一過敏ナルヨリ起ル、故ニ決斷アル人ト云ヘ
 バ、第一、十分ノ思慮ヲ爲シ、第二、理想上ノ動機
 ヲ保持スル者ナリ、
 (三)動機強クシテ、活動スベキ機關弱キ片ハ、努力
 ト稱スル奇異ナル意識ヲ生ズ、

若シ自己ニ適當セル事業ヲ爲ス片ハ、快キ筋
 覺カ、又ハ中性ノ筋覺カヲ生ズ、此ノ如クナル
 片ハ、努力ヲ要セザルナリ、然ルニ若シ勞動ノ
 十度、体力ノ際限ニ近ツク片ハ、次第ニ苦痛ノ感
 覺ヲ増加ス、約シテ之ヲ言ヘバ、容易ナル事業
 ト全ク能クスベカラザル事業トノ間ニアリ
 (一)テハ、苦痛ノ甚シキニ隨ヒテ努力モ甚シカラ
 ザルヲ得ズ、總ベテ苦痛ハ行爲ヲ止メシムル
 ノ動機ナレ氏、此動機ヨリモ猶ホ一層強大ナ
 ル動機アル片ニハ、苦痛ヲモ顧ミザルヲアリ、

斯様ノ時ニハ行爲ノ爲メニ苦痛ヲ来タスニ
隨ヒテ益努力スルヲ要ス

第五願望

(二)願望ハ快樂若クハ苦痛ノ爲メニ發動セント
スレバ其力量無キ時ニ生ズ、故ニ是レ亦動機ヨ
リ行爲ニ至ルマデノ間ニ休止スル一種ノ状態
ナリ、

若シ快樂ヲ得ルヲアリテ之ヲ繼續若クハ増
益セントシ、直ニ之ヲ爲スヲ得バ、願望ヲ生ズ
ルヲナシ、苦痛ニ於テモ亦然リ、今戶外ニ出デ

寒氣ノ爲メニ苦痛ヲ生ズルハ、家ニ還リテ

衣服ヲ襲ヌレバ、苦痛直ニ止ミテ願望ヲ生ズ

ルニ暇アラズ、然ルニ若シ家ヲ隔ツルヲ既ニ

遠キニ及ビテ、遽ニ寒氣ニ感ズルヲアラバ、直

ニ之ヲ治スルノ法ヲ得ルヲ能ハズ、此ノ如ク

動機ノミアリテ發動スベキ能力ナキ状態ヲ

願望トス、

(三)願望ハ動機タル快樂若クハ苦痛ト、苦痛アル

争賽ノ状態トヲ含有ス、

動機ハ或ハ現在ノ快樂ニシテ、繼續且ツ増益

セシメントシ、或ハ理想ノ上ノ快樂ニシテ、實
 事ト爲サシメントシ、或ハ又現在ノ苦痛ニシ
 テ、減損若クハ除去セシメントシ、或ハ觀念上
 ノ苦痛ニシテ、實事ト爲サヅラシメントス、之
 ヲ要スルニ、動機ハ快樂ト苦痛トニ外ナラズ、
 然レモ動機ノ命令ニ從フ能ハザル所ニ至リ
 テ始メテ争賽ノ苦痛ヲ生ズ、
 (三)願望ノ爲メニ争賽及ビ不休ノ状態ヲ来タス
 ヲ免ル、ノ法ニ種々アリ、
 第一ハ強壓ナリ、其尋常ノ名目ヲ舉ケレバ、耐忍、

順從、亮直等ノ如キ、是レナリ、
 強壓トハ、強ヒテ願望ノ勢カヲ抑制スルヲニ
 テ、若シ現存スル快樂ノ動機トナル片ハ、之ヲ
 増益スルヲ求メズシテ満足シ、若シ現存ス
 ル苦痛ノ動機トナル片ハ、之ニ耐ヘントスル
 傾向アリ、
 (四)理想上即チ想像上ノ行爲ヲ第二トス、
 感應ノ爲メニ激動セラレモ、行爲ノ路ヲ得
 ザル片ハ、理想上ニ於テ之ヲ爲スヲ得、若シ茲
 ニ寢室ニ閉居スル人アリテ、衆人ト共ニ外出

セント欲シテ之ヲ爲シ得ザル片ハ、想像上ニ於テ意ノ向フ所ニ徘徊シ、此ニ由リテ多少ノ満足ヲ来タスヲ得ルナリ、

（四）身体上ノ快樂ト苦痛トニ至リテハ、如何ニ之ヲ想像スルモ、毫モ之ガ爲メニ得ル所ナシ、故ニ飢餓セル片思想中ニ於テ食物ヲ求ムト雖モ、毫モ満足スルヲ能ハズ、又牢中ノ人ニハ、牢ヲ破壊スルノ觀念屢起ルヲアルベケレ氏之ガ爲メニ閉居ノ苦痛ヲ減ズルヲハ、勿論無キナリ、

然レ氏高等ノ感覺及ビ情緒ニ至リテハ、想像ニ由リテ實事ノ欲ケタルヲ補ヒ得ルヲ少シトセズ、若シ瑞西國ヲ遊歴セント欲スレ氏之ヲ爲スヲ能ハザル片、理想上ニテ其地ニ遊歴スレバ、多少ノ満足ヲ来タスベシ、況ヤ又他人ニ我ニ其地ノ景況ヲ告クル者アラバ、此ニ由リテ想像上ノ旅行ヲ爲シ、之ガ爲メニ快樂ヲ樂生ズルヲ少クニアラズ、固ヨリ想像上ノ快樂ハ、實際ノ快樂ニ及バズト雖モ、實際ノ快樂ヲ得ザル片ハ、想像上ノ快樂ニ由リテ幾分力之

ヲ補フヲ得ルナリ、
 (五)願望ヲ誘起スル者ハ、第一身体ハ要求第二快
 樂ハ經驗是レナリ、
 第一ノ種類ハ、各種ノ体欲ト、慣習ニ由リテ發
 生シタル欲望トヲ包含ス、今食物、運動等ヲ要
 求シ、直ニ之ヲ爲シ得ル片ハ、願望ヲ生スルニ
 違アラズ、然レ氏若シ容易ニ其要求スル所ヲ
 得ザル片ハ、願望ノ状態ヲ来タス、
 体欲ノ外ニ願望ヲ誘起スル者ハ、快樂ノ經驗
 ヲ以テ太甚ナル者トス、若シ一たび快樂ヲ得

ルトアレバ、後チ追思シテ復タ之ヲ得ント欲
 ス、稚兒ノ如キハ乳房ノ外願望ヲ有セザレ氏、
 新奇ノ快樂ヲ經驗スルヨリ種々ノ願望ヲ生
 ズルニ至ルナリ、

第六、依信

(一)依信ハ知力及ビ感應ヲ含有スレ氏、然レ氏主
 トシテ發動即チ意志ニ關スル者ナリ、
 太陽ノ明日昇ラントヲ信ジ、翌冬ノ寒カラシ
 トヲ信ジ、土兒格ノ政治ノ惡シキトヲ信ズル
 片ハ、心意ノ状態ハ如何ニアリヤ、全ク知力ノ

爲メニ占領セララル、カ、將タ知カノ外ニ存ス
 ル者アルカ、又感應即チ情緒ヲ以テ知カニ加
 ヘテ依信ノ状態ヲ得ルヤ否ヤ、假リニ今年ノ
 夏ノ美麗爽快ナランコトヲ預想セヨ、必ズ之ガ
 爲メニ多少ノ快樂ヲ生ゼシ、然レ氏其快樂ハ
 依信ヲ組成スル者ニアラズ、此ニ由リテ之ヲ
 觀レバ、依信ノ本素ハ、知カニモアラズ感應ニ
 モアラズ、
 日常ノ間ニ於テ人ノ依信ヲ知ラシニハ、其行
 爲ニ由リテ之ヲ察スルニ若クハ無シ、若シ茲

ニ一個ノ政治家アリテ自由貿易ノ良法タル
 コトヲ言ヘドモ、之ヲ實行セザル片ハ、其人自ラ
 其言ヲ信ゼザルヲ知ルナリ、又一個ノ將校ア
 リテ口ニハ其兵ノ敵ニ優ルコトヲ言ヘドモ、其
 行爲ハ如何ニモ敵ヲ恐ル、ガ如キ状態ヲ表
 ハス片ハ、其人ハ自ラ言フ所ヲ自ラ信ゼザル
 ノ人トセラレン、又一個ノ人アリテ来世ニテ
 賞罰ヲ受クルコトアリト言ヘドモ、其行爲ヲ察
 スルニ毫モコレアリトスル者ノ如クナラザ
 ル片ハ、實ニ其事ヲ信ズル者ニアラザラン、故

ニ凡ソ依信ハ、發動上ニ現ハレテ始メテ其眞成ナルヲ知ル、

(三) 依信ト發動トノ關係ハ、我が信ズル所ハ我レ之ヲ行フノ一言ニ外ナラズ、
前條ノ下ニ例ヲ舉ゲテ論ゼシ所ヨリ之ヲ推シ来レバ、此一言ヲ以テ之ヲ結バザルヲ得ズ、畢竟依信アルト依信無キトハ、發動上ニ現ハル、者ニテ、今一ソウエレイン(貨幣ノ名)ノ價、二十シルリシカ(貨幣ノ名)ナルヲ信ズルハ、直ニ一ソウエレインヲ以テ二十シルリシカト換易

スルニ由リテ之ヲ知ル、若シ又二十シルリシグヲ以テ一ソウエレイント換易セザルモノハ、一ソウエレインノ價二十シルリシカニ及バザルヲ信ズルニ因ルナリ、
依信ノ義ハ、格外ノ如ク見ユル事項ヲ舉ゲテ之ヲ明ニスルヲ得ベシ、
(一) 吾人ハ眞成ノ依信ヲ有スレバ、之ヲ行爲上ニ表ハサザルコト、往々コレアリ、例ヘバ、激動物(即チ酒ノ類)ヲ用ヒザレバ、健康及ビ快樂ヲ得ベキコトヲ確信スレバ、猶ホ激動物ヲ廢スルコト

能ハザルガ如キ、是レナリ、此外之ニ類スル事
少シトセズ、然レモ是レ決シテ真成ニ格外ナ
ル者ニアラス、凡ソ依信ハ發動ヲ生ズルノ動
機ナレモ、現在ノ快樂ノ如キ一層強固ナル動
機ノ爲メニ檢制セララル、トアリ、故ニ吾人ハ
依信ノ爲メニ發動ヲ為スノ傾向ヲ有スレモ、
常ニ全能ヲ以テ之ヲ為スニアラザルヲ知ル
ベシ、
且ツ夫レ依信ノ勢力ニハ、種々ノ度位アリテ、
或ハ堅強ナルトアリ、或ハ微弱ナルトアリ、若

シ強キ反對ノ衝動ニ阻礙セラレザル片ハ之
ヲ堅強ナリトシ、若シ弱キ衝動ノ爲メニスラ
檢制セララル、片ハ之ヲ微弱ナリトス、然レモ
幾分カ發動ヲ生ゼントスルノ傾向アリテ、僅
ニ反對ノ發動ヲ拒絶シ得ル片ハ之ヲ依信ト
スルナリ、
(口) 格外ノ如ク見ユル第二ノ事項ハ、依信ハア
レド決シテ之ガ爲メニ發動スル能ハザルト、
是レナリ、例ヘバ方今ノ哲學者中ニハ、太陽ハ
常ニ其熱ヲ射出スルヲ以テ、遂ニハ寒冷トナ

リ、華氏寒、煖計ノ零點以下ニ至ルナラント信
 ズル者アリ、又天文學者中ニハ大空ノ遼遠ナ
 ル處ニアル星雲ニ就キ、依信ヲ抱クト少シト
 セズ、然レモ此等ハ皆其依信ノ爲メニ發動ス
 ルト能ハズ、又歴史上ノ事ヲ信ズルモ之ト異
 ナラズ、エパニモンダス氏ノ顯績、及ビ羅馬人
 ノ英國ヲ襲ヒシト等ハ、皆我が發動ノ範圍外
 ニアリ、然レモ亦依信スル所ナリ、又現存スル
 事ニ就キテ之ヲ言ヘバ、サハラノ沙漠ノ如キ
 ハ決シテ之ヲ見ルノ機會無シト雖モ、他人ノ

言ニ因リテ其地ノ景況如何ヲ信ズルトアリ、
 (ハ)依信ハ感應ノ強弱ニ由リテ固定スルトス
 リ、故ニ或ハ依信ハ感應ニ本少クト云フ者ア
 ラシカ、果シテ然ラバ、其事實ハ可トスベシト
 雖モ、其推理ノ法ハ可トスベカラズ、夫レ感應
 ハ依信ヲ感化スルトアレモ、依信ヲ組成スル
 者ニアラザルナリ、
 (三)依信ハ全ク知力的ノ作用ニ由リテ生ズル
 トアリ、例ヘバ、幾何學上ノ解説ノ如キハ、推理
 ト論證トニ因リテ依信ヲ来タス、其他辯明、引

心理新説卷之四終 大尾
證等ニ由リテ依信ヲ生ズルヲ極メテ多シ、此
ニ由リテ之ヲ觀レバ、知力實ニ依信ノ根源タ
ルニ似タリ、故ニ形而上學者ノ徒ハ、往々依信
ヲ知力ニ屬スルモノトス、然レ氏知力ハ依信
ヲ組成スル者ニアラス、幾何學ノ推理法ノ如
キモ、我が依信ヲ生ズルニアラスシテ、既ニ我
ニアル依信、即チ單元ニ於ケル依信ニ因リテ
解説スルニ過ギザルナリ、

明治十五年五月十二日 版權免許
同年 十一月 日 刻成出版

譯者 井上哲次郎
麴町區三番町四十八番地

校訂 大槻文彦
淺草區今戸町二十一番地

出版 青木輔清
日本橋區濱町二丁目十一番地

